

# 裏庭

## 梨木香歩

今年のテーマが「癒し」と聞いて、いろいろの本が思い浮かびました。私自身、しんどい時、考え込んでしまう時、本に助けをもらうことがよくあります。この本を読んで気分が落ち着いたら！とか、この本に答えがあった！癒された！と思うことはあまりなく、どちらかというと、ますます沼にはまっていくような、それでいて自分だけでぐるぐると考えていた時よりは道筋がついたような、そんな本に助けられてきました。なかでも梨木香歩さんの本には、そんなことがよくあります。その中から、今回は「裏庭」を紹介します。初めて読んだのは多分中学生ぐらいのとき。当時は暗い、怖い感じがして、あまりおもしろいと思えませんでした。2回目に読んだのは大学生になってから。そのとき、ちょっとこの本のおもしろさに気づきました。冒険譚として読んでいた中学生の頃と違って、出てくるキャラクターや起こる現象に、意味を持たせることができるようになりました。とてつもなく奥深い一言を見つけたりとかね。今回のテーマに合うかな、と思って改めて読んだとき、1回目とも2回目とも違う読み方ができました。昔、英国人一家の別荘だった洋館。そこの庭は近所の子どもたちが潜り込んで遊ぶ場所でした。主人公の照美は、その“前庭”ではなく、秘密の“裏庭”に入り込んでしまいます。そこには別の世界が広がっていました。すごくファンタジー！なのですが、ただの冒険じゃないのがこのお話のすごいところ。現実世界で孤独や辛い気持ちを抱えて、誰にも話せないでいる照美。彼女のせいだけではなく、祖母の世代から続いてきている問題だったりもするのですが、感情を抑えがちな日々が続くとそれが普通になってしまいます。“裏庭”で旅をすることによって、彼女の心の中でも変化が起きます。傷ついたところを元通りに治すのではなく、認めて、そのままにしておくような。3人のおばあちが出てくるのですが、みんな「傷」について言及しています。「傷を恐れるな」「傷に支配されるな」「傷を大事に育め」。中でも2人目のおばあちが「真の癒しは鋭い痛みを伴うものだ。さほどに簡単に心地よいはずがない。」と言っていたのがすごく印象的でした。ちょっと疲れたなっていう時は、好きなものを見てその世界に浸るとか、イライラしてる時は歌ってストレス発散してみるとか、自分でなんとか癒すことができるかもしれません。でも、本当にしんどい時、不安な時、どうにも気持ちを保ってられない時はどうしたらいいのか。そのヒントがこの本にはあると思うのです。もっと深読みすれば、心理学的にも読めるし、民話やバラッド、能、神話、仏教の話も下地にありそうだったり、植物もたくさん出てきたり、著者の別の作品につながっていくモチーフが見受けられたりと、本当に盛りだくさん。心理学に興味があったら、河合隼雄さんの本、お庭に興味があったらバーネットの『秘密の花園』、梨木香歩さんの『西の魔女が死んだ』もあわせておすすめです。

### 梨木香歩

1959年鹿児島生まれ、同志社大学卒業。英国に留学し、児童文学者のベティ・モーガン・ポーエンに師事。著書に『西の魔女が死んだ』『家守綺譚』『沼地のある森を抜けて』など。